



新潟市子ども条例 フォーラム 実施報告



ははたけ!
未来を支える
こどもの笑顔

日時: 令和7年12月6日(土曜) 4階学び体験ブース 午前10時~午後2時
6階フォーラム 午後1時30分~午後4時
会場: 万代市民会館(新潟市中央区東万代町9-1)



■実施概要



新潟市では令和7年12月6日(土曜)に万代市民会館において「新潟市子ども条例フォーラム」を初めて開催しました。登壇してくれた小中高校の児童・生徒は、事前のワークを通じて「子どもの権利」について考えた意見を発表したほか、より子どもの権利が守られる新潟市になるために提案を行いました。

4階では学び体験ブースを開き、専門学校等からの協力により様々な体験や子どもの権利に関するクイズラリーなどを実施しました。

実施内容

4階学び体験ブース 午前10時～午後2時

- ネイルチップ制作
- ヘアアレンジ体験
- 学生創作ゲーム体験
- イラスト描き方&イラストを使ったストラップ作り体験
- 子どもの権利クイズラリー
- 子どもの権利積み木ゲーム
- こども政策課ブース(風船配布、塗り絵、缶バッジ作り)

6階フォーラム 午後1時30分～午後4時(午後1時開場)

開会の挨拶

新潟市子ども条例、子どもの権利相談室こころのレスキュー隊の紹介・報告

小学生による意見発表

中・高校生 意見発表&ディスカッション

CHIBI UNITY ダンス&トーク

閉会の挨拶、ここうさ・ここねこのお見送り

ご参加・ご協力いただき
ありがとうございました



司会は
フリーアナウンサーの
廣川 明美さん



■開会挨拶(新潟市こども未来部長 高橋昌子)

皆さま、本日はご参加いただき、そしてこの場にいらっしゃらない方も準備に関わってくださった方がたくさんいると聞いています。本当に皆さま本日はどうもありがとうございました。

小学生、中学生、そして高校生の皆さんの生の声を聞かせていただいて、子どもの権利について学び・感じ・考える貴重な機会となりました。

私たちが暮らす社会はこどもたちが安心して成長できて、そして一人一人が自分らしい未来を切り開けるそんな社会であるべきだと考えます。しかし、現実的には、生きていく権利それすらも守られていないこどもがいたり、あるいはそういう声を上げられないこどもがいることも事実です。

私自身も皆さんの声をちゃんと聞いているのだろうか、おとなとしてやるべきことがたくさんあるなと思いながらここに立たせていただいています。こんな気づきも、本日皆さんから教えていただいたことだと感じています。

今回のフォーラムの学びを、これからもいろいろな方に発信していきたいと思ったり、皆さんの話を思い出しながら、自分なりに考え、こどもたちが自分らしく、安心して成長できる社会となるように努力していきたいと思ったり。

■新潟市子ども条例、子どもの権利相談室こころのレスキュー隊の紹介・報告



スライドや寸劇を取り入れ、新潟市子ども条例や子どもの権利相談室の紹介を行いました。
また、来場者には子ども条例のパンフレットや子どもの権利相談室のリーフレットを配布しました。

みんなで守ろう！子どもの権利
—令和4年4月施行 新潟市子ども条例—

<子どもにとって大切な権利>

- 安心して生きる権利 ●豊かに生き、育つ権利
- 自分らしく生きる権利
- 身近なおとなに思いや願いを受けとめてもらえる権利
- 社会に参加する権利

みなさん、こんにちは！
子どもの権利相談室 こころのレスキュー隊 キャラクター
ここうさ・ここねこだよ！

「こころのレスキュー隊」は、新潟市に住んでいたり、通っていたりしている子どもたちから、おうちや学校、習い事、地域などの中で「自分らしくひとりの人間」として大切にされるように、「子どもたちの声や願い(思いや願い)を聴くところだよ。」

「うまく話せるかな」「これっておかしいのかな」「このくらいで聞いてもいいのかな」と心配な気持ちでいっぱいになることもあるよね。

「こころのレスキュー隊」は「子どもたちのこころ(思いや願い)の場所だよ。そのこころに寄り添い、その子どもにとって「一番のよいこと(最善の利益)」と一緒に考え、「子どもたちのこころ(思いや願い)と子どもの権利」を守ってくれるんだよ。

項目	内容
相談・申立てができる者	<ul style="list-style-type: none"> □ 市内に住所を有する子どもに関するもの(※子ども18歳未満の者その他に之らの者と等しく権利を認められる者が適当と認められる者) □ 市内に通勤し、又は市内の学び・育ちの機会に通学し、通所し、若しくは入所する子どもに関するもの
相談受付時間	<ul style="list-style-type: none"> □ 月～火・木～金：13:00～19:00 □ 土：10:00～16:00 ※日・水・祝・年末年始休み ※毎月第4月曜休み
相談方法	<ul style="list-style-type: none"> □ 電話、対面 □ メール、WEBフォーム □ 手紙、はがき



おとも、子どもをみんな守ろう！子どもの権利

新潟市子ども条例

「こころのレスキュー隊」に行くにはどうしたらいいの？

新潟市子どもの権利相談室
こころのレスキュー隊

子どもの権利相談室「こころのレスキュー隊」は、子どもの権利を守るための相談室です。

困ったことがあったらいつでも相談して大丈夫！

発行 問い合わせ
新潟市子ども未来部 子ども政策課
〒951-8510
新潟市中央区学芸1-1-1 新潟市庁舎(1階)
TEL:025-225-1193 新潟市子ども未来部
©2022.04.01現在 新潟市子ども未来部 企画・編集
新潟市子ども未来部 印刷

子ども専用フリーダイヤル
0120-175-255

こころのれびきゅー隊！ 紹介

■小学生による意見発表(万代長嶺小学校、鏡淵小学校)

万代長嶺小学校

私たちが学んだこと・考えたこと

□安心して生きる権利について

- ・いじめや暴力から守られる権利があることでみんな安心して過ごせる
- ・この条例があっても虐待やいじめを受けている子どもが存在していて、虐待やいじめをしている人は条例を知らないのかもしれない
- ・みんなに知ってもらうために工夫が必要
- ・虐待やいじめをなくするために相談専用窓口やいじめ見逃しゼロ運動は必要不可欠だと思う

□豊かに生き育つ権利について

- ・子どもがみんな安心安全な暮らしになる。一人一人が自分らしく生きられるということに魅力を感じる。
- ・学ぶ、遊ぶを自分で決められておとなに受け止めてもらえることは、安心して過ごすことに繋がる
- ・条例をもっと色々な人に知ってもらい、広めることが大切

私たちの主張

子ども条例の身近な思いや願いを受け止めてもらえる権利をもとに、もっと子どもが遊べる交流できる場所を増やしてほしい



□子どもがスポーツをやりたいと思えば、スポーツに参加できることについて

- ・スポーツをやりたい人はどんどん挑戦できる
- ・自分はバドミントンや水泳をやっていて、これからサッカーやバレーもやってみたい。この条例をもとに運動できる場所はもっとたくさんできるとよいと思う。

□自由に意見が言えるや、やりたいことに挑戦するについて

- ・この条例で子ども一人一人が守られる
- ・世の中には家族の手伝いなどが忙しく、自分のやりたい習い事や遊びができない子どもたちがいる。自分のやりたいことができないのはとても悲しいこと。色々な人に条例を知ってもらい、おとなに子どもの権利を守ってもらいたい。

□自分らしく生きる権利の一人の人間として大切にされることや、自分がやってみたいと思うことに挑戦できることについて

- ・自分は野球が好きで家の人も協力して送り迎えをしてくれている。もし同じ小学生などでやりたいことができない人がいたら、もっと自分を大切に毎日を過ごしてほしい。
- ・子どもが自分らしく生きることが条例で決められているのは大切にしてほしい
- ・子どもたちのやりたいという気持ちをこれからも守ってほしい



■小学生による意見発表

6年生へのアンケート結果

<意見>

- ・人と話せるところが少ない
- ・高齢者の方の施設が少ない
- ・身近に公園が少ない
- ・大きなイベントが少ない
- ・自分たちが遊べるところが少ない
- ・中学生が遊べる児童センターが少ない

遊べる場所が少ないと思っている人が多いということが分かった。

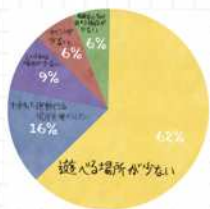
私たちの小学校区内の遊べる場所が少ない・あまりない、中学生になると遊べる場所は限られてくるという理由。

児童センターも対象者が乳幼児・小学生なので、中学生になるとあまり遊べなくなってしまう。

年齢に問わず、いろいろな世代が集まれてみんなが楽しめる。そんな遊べる場所を新潟市に増やしてほしい。

また、こどもが元気に運動できる場所も増やしたい。いきいきと運動する場所やこどもだけで安心して集まれる場所がもっと必要だと思う。

6学年全員にアンケートをとった結果



わかったこと

遊べる場所が少ないと
思っている人が
半分以上いる。



まとめ



人と話せる場所が少ない。
自分たちが遊べる場所が少ない。
中学生などが自由に遊ぶことのできる施設が少ない、
と私たちは考える。

これを解決するために、様々な年代が年齢を問わずに交流したり、運動したり、できる場所を増やしてほしい！

私たちは新潟市子ども条例を学ぶことで、一人一人の人権がしっかりと守られているということに気付くことができました。

これからこどもたちの未来を守るために、新潟市子ども条例について1人でも多くの人に知ってもらいたいと思う。



■小学生による意見発表(万代長嶺小学校、鏡淵小学校)

鏡淵小学校

僕たちが伝えたいこと



こどもがもっと自由に安心できる新潟市を作ってほしい

モヤモヤ劇場 ～僕たちが感じているモヤモヤを劇に～ (■こども役 ○おとな役)

モヤモヤ01

■ねえ、お父さん。今度の土曜日、お願い、一緒にどこか遠い公園にでも遊びに行こうよ。

○ごめんな。今度の土曜日はお母さんに頼まれて、家具の買い物にどうしても一緒に行かないといけないんだ。

■えー。じゃあ僕一人で近くの公園で遊んでくるよ。でもなあ。近所の公園は大きな声を出せないし。ボール遊び禁止の看板だらけ、全然楽しくないんだよな。遠くまで行ければいいんだけどな。家でおもいっきり遊ばれたら近所迷惑だしな。もっとこどもだけで行けて自由に遊べる広い場所が欲しいな。僕たちの自由な時間が守られていない気がするよ。

モヤモヤ02

○フー

■よし飲み物買ってさっぱりして帰ろう。すいません。ちょっとタバコの匂いがきつくて○なんだとこどものくせに一丁前に。タバコを吸うのは自由だろ。

■お店の近くに喫煙所があると匂いが気になるな。タバコの臭いを嗅ぐと気分が悪くなるし、そのお店に買い物に行けなくなってしまうな。もっとお店と喫煙所を離してほしいな。



僕たちの不安や不満は、すべて人権の問題につながっている。

こどもだけで思い切り遊べる権利。
タバコの臭いを気にせずにごろごろする権利。
これらはこどもとして当たり前持つべき人権。

今の新潟市はとても気持ちよくごろごろするまち。その新潟市をさらに良くするために、僕たちは自由に遊ぶ権利、安心して生きる権利をもっと改善することを提案する。

提案したいことは3つ

こどもだけで行けてこどもだけで思い切り遊べる場所を作してほしい。こどもだけでボール遊びができる。こどもだけで思い切り走り回れる。周りを気にすることなく、大きな声を出せる。

タバコを意識しないでごろごろするように分煙を徹底してほしい。今以上に喫煙所の場所を遠くに。飲食店やコンビニなどこどもが行くようなところでは、煙や臭いが気にならないように。

こどもと一緒にまちづくりを進める。進めてほしい。こどものモヤモヤを聞いてくれるような機会を設ける。こどもの意見を取り入れる会議を開く。

新潟市のこどもとして自分たちの権利を主張しました。困っていることや変えて欲しいことは伝わったでしょうか。僕たちの人権が守られる安心な未来を作ってください。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



テーマ

- 「子どもの権利」は守られているか。もっと権利を大切にしてもらうためにどうしたらよいか。
- 友だちと円滑な関係を築くためには

登壇者

- 宮浦中学校 川口さん、北林さん
- 万代高等学校 田中さん
- 新潟青陵大学 福祉心理子ども学部 教授 伊藤真理子さん
- 新潟市こども未来部 部長 高橋 昌子
- コーディネーター 木村 有希さん
- 白新中学校 山本さん
- 明鏡高等学校 倉持さん
- 新潟市こどもの権利救済委員 岡田 典仁さん
- 新潟市教育委員会事務局 教育次長 丸山 明生



意見表明

各校における事前ワークには、登壇した生徒だけでなく、他の生徒からも参加いただきました！

子どもの権利は守られているか、権利を大切にしてもらうためにどうすべきか

宮浦中学校 北林さん、川口さん

■全員が自分の意見を自分から主張できるようになるには

「自分に合ったペースで生活できる」が十分守られていない。思いを伝えることができていない。授業で先生から意見を求められたときなど、発言する人が限られている。周りからかわれぬか、発言が正しいか心配がある。対応策は周りの人の目と意見が正しいかを気にしないという精神を大切にするといいと思う。授業でも同じ意見ですという発言をして発表する人もいますが、自分ではもどかしさを感じる。その人がその考え（予想）にたどり着くまでの道筋は人によって異なるが、その考えがクラスに共有されないことになる。この道筋の中に確信をつくようなことが隠されていることもあり、クラスの中で学びが深まると思う。私たちは周りの目や自分の意見の正しさを気にせず、自分しか気づいていないという自信をもって発言することが大切だと思う。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



白新中学校 山本さん

■子どもが安心して自分らしく生きられる社会をつくるために

今はスマホなどで簡単に人が傷つくような言葉を言えてしまう時代であり、私たちの世代でもスマホや学校のiPadが非常に身近にあり、簡単に他の人が傷つくようなやり取りが起きやすい現状がある。もし自分の身にそのようなことが起こった場合、安心して学校に来られない。安心して生活することができない。

社会の課題に目を向けてみると、ニュースで児童虐待の事件で子どもが傷つくニュースが多くなってとても悲しくなる。一番大切な権利、安心して生きる権利を保障されるべき子どもが、その権利を守るべきおとなに普段の生活を侵害されているという現状に大きな違和感を抱いている。

誰かに助けを求める手段として、私たちの世代は電話に慣れておらず、緊張したり苦手意識を持ったりしていることから、学校や子どもが多く利用する公共施設に切手なしでお金がかからず送れるはがきを設置することを提案する。今よりもさらに安心して過ごせたり、助けを求めやすい環境になったりすることを願っている。

万代高等学校 田中さん

■個人の尊重

友だちに相談したときに友だちの友だちに私の悩みが知られてしまっていた時がある。子ども同士のなかでもその時にプライバシーが守られていないと感じてしまう部分がある。

部活動の遠征などのお金がどうしてもかかってしまうことがある。

友だちがその友だちに話をすること、部活動でお金がかかることなど、自分が関わっていくことができない部分にどう関わっていくのか疑問を持っている。

その他、生徒会やクラス活動での話し合いが多くあるが、決定するときに片方が不満をもってしまうことがある。その際に、自分たちが選ぶ立場であったとしても、その選び方が曖昧でわからない部分がある。

学生の皆さんは尊重されていないと感じてしまうことはあるか。

また、皆さんは個人の尊重についてどう考えるか。

明鏡高等学校 倉持さん

■おとなの意見を押し付けていない？

自分らしく生きることについて、おとなの意見を子どもに押し付けていないか疑問に思う。

例えば小学生の時は意見は無いものとしてみていないか。おとなの皆さんが私たちが小学生の時にルールを決めてしまうことが多いと感じたことがあった。例えば服装やその子が使いたい色、キャラクターなど。

高校生に上がったからは私たちが自分の意見を言っても流されてしまったり、言いくるめられてしまうことが多いと思った。進路で中学校から高校に進学するときに、定時制より全日制を進められたり、世間体を気にしてしまったりと、私たちの意見よりもなぜ世間体を気にしてしまうのかなど思ったり、学校行事で先生の判断で意見を誘導したり止められたりしたことがある。

おとなが意見を言わせない、子どもは意見を言えない関係になっているんじゃないかと思う。これがすべてダメなわけではないが、私たちにとって先輩方からの大事な意見としてとても役に立つ時もあるが、小さい子であってもおとなと同じように意見を受け入れてほしい、私たちの意見を大事にしてほしいと思う。

■ 中高校生の意見表明&ディスカッション



意見表明に対する有識者からの感想など

新潟青陵大学 福祉心理子ども学部 伊藤教授（臨床心理学科教授）

皆さんの話を聞いて、今日の発表まで色んな子どもの権利について、よく考えて話してくださったな、「すごいな」って素直に思っている。話を聞く中で考えたことは、私は色んな悩みを聴くことを仕事にしているが、悩みを聴く時に思うのは自分の気持ちを話すってそんな簡単じゃないなということ。

どうしても、「こんなこと言って人に受け取ってもらえるかな」とか、「自分で本当は何が言いたいんだろう」とか考えてしまって、なかなか自分の気持ちを言うのは難しい。今日は子どもの権利についてすごくしっかり話をしていたんだけど、なかなか話をするって難しいなと思う。

（各校の話聞いて）これから話し合えたらいいなって思うことは、どんな風にしたら「助けて」という思いとか、「私はこう思っているんだよ」という意見が発言しやすくなるのか、そういう環境ってどうやっておとなと一緒に作っていきけるんだろうかということについて話し合えるといいと思う。

新潟市こどもの権利救済委員 岡田委員（弁護士）

発表した皆さんからは、概ね子どもの権利が守られているという意見だったと思う。私はまだまだ全然守られていないよ、おとなはもっとしっかりして、新潟市さんしっかりしてと、そういう意見が出るのかなと思ったが、概ね守れているという感想をもっている。

ただ、個別の話を見ると、いじめの問題、虐待の問題、家庭的・経済的な問題、話は出ませんでしたけどヤングケアラーの問題など、こどもを取り巻く環境というのは決して良いとは言えないと考える。

そのために、前半でも紹介がありました「子どもの権利相談室」が立ち上がり、日々、色んな相談を聞いて一緒に考え、何とか解決できたらなという風に考えているというところ。

今日はまた色々細かい内容について、話ができたかと思っているので一緒に意見を交換したいと思う。

新潟市こども未来部 高橋部長

こども・子育てに関する仕事をしていて、「子ども条例」も担当している。改めて、今の中学生、高校生、先ほどの小学生も、本当に一生懸命に、しっかりとこの子ども条例について考えたということがよく分かる発表だった。

本当に幅広く、いろんな課題が出てきている。一つ一つすぐ解決という風にはなかなか難しいなというところでもあるが、先ほどの先生方の話にもあったように、まずは話を聞く・話をするというところが大切なんだと、今日は思って来ている。この後、ディスカッションの時間は限られるが、皆さんの生の声をたくさん聞かせてもらえるとありがたいと思う。

新潟市教育委員会事務局 丸山教育次長

教育行政8年目で、その前は30年間学校の教員をしていた。小学校、中学校で勤めたことから、教育行政の立場と学校教員としての立場で話をさせてもらおうと思う。

今まで話を聞いて思っていることは、ここに上がっている皆さんは「聞いてほしい」という気持ちを持ってさっき発表してくれた。それに対して、私たちおとなは、「聞かせてほしい」という気持ちで聞くこと、やり取りが大事だと思っていて、そういう気持ちで聞いていると思うので、何でも自由に自分の言葉で話してほしい。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



ディスカッション

◆万代高等学校 田中さん ⇒ 岡田委員へ質問

「プライバシーの侵害ってどこから侵害となるのかよくわからないので教えてほしい」

<岡田委員>

プライバシーという言葉はみなさんよく使う言葉だと思うけれども、どこまでがプライバシーなのかというところが多いと思う。一番最初のスタートからいえば、自分ことは自分でやるからほっといてよ、わたしに干渉しないでよというのもプライバシーかもしれないし、色々な関りをもつなかで、私の情報を勝手にペラペラ喋らないでというのもあるし、あるいは写真とかもせっかく楽しく撮ったのにそれを全然知らない人に送られちゃう、インターネットやSNSにアップしちゃうところも、今ではプライバシーの侵害ということになると思う。
どこまでがプライバシーの侵害かというとなかなか難しいところがあるけれど、基本的にはみなさんがこれは知ってほしくない、知られたくないと考えている情報、本人以外は公になっていない事実であればそれを勝手に他人が知らせるとするのはプライバシーの侵害と考えられると思う。

<木村コーディネーター>

実際に経験した話を先ほど話してくれたが、もう少しその話をしてもらえるか。それは知ってほしいことだったのか、そんなに知られたくないことだったのか。

<万代高校 田中さん>

私はその部活動のことを友だちに相談したけど、その時にその友だちの友だちには知られたくない情報だったので、その時に「あれっ」とちょっと疑問に思うことがあった。

<木村コーディネーター>

あまり知られたくないことだったんですね。ちなみに、岡田委員は弁護士としても活動されているが、子どもの権利救済委員としてそのような相談はこどもからもあたりもするものか。

<岡田委員>

最近では、SNS等で友だちにいろんな情報を広げられてしまう、拡散されてしまうという相談は受けたことがある。

<木村コーディネーター>

子どもの権利救済委員とかにも、プライバシーであったりとか、自分の個人情報であったり、知られたくないと思ったことがあったときに相談できるということなので、ぜひ相談とかもここにいらっしゃる学生の皆さんとかもしていただけたらいいのかなと思う。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



ディスカッション

◆白新中学校 ⇒ 伊藤教授へ質問

「(先ほどの岡田委員の話聞いて) 友だちに勝手にSNSにアップしないでとかうまく伝えられたらいいけど、友だちにそのことを伝える時の上手な伝え方があるか。」

<伊藤教授>

(先ほどの万代高校の発言のやり取りを聞いて) 嫌だったなーって思ったらどんな風にそれを伝えたのかな? 逆質問で悪いけれども、その友だちが友だちの友だちに言ってしまって、その後どうしたんですか。

<万代高校 田中さん>

実際にその聞いた場面にあったわけではないが、私に関することは言えなかったが、友だちがその相談内容をまた別の友だちに言ってしまった時には「それ言っちゃって大丈夫なの?」と言った。

<伊藤教授>

直接話した人に言うのはとても勇気が必要で、「本当は、大事にしていたんだよ。自分が大事にしてることをあなただけに言ったんだよ。」ということをして直接その人に言いたいけど、なかなか言えないということもあるよなあとと思う。

カウンセリングで中高校生の人たちの話を聞いていて、「自分がこういうことされたら嫌だったんだよ」って言ったら、それで仲が悪くなっちゃうんじゃないかな、とか、これで友だちが終わるんじゃないかな、って思うのかなって思う。だけど、本当は、「私こういうことされて嫌だったんだ」とか、「傷ついたんだ」とか、そういうことを言えるような友だちをどうやったら作れるかなって、まずは考えてほしいなって思う。

でも、それがなかなか直接相手に言えないなっていう時に、隣にいる友だちに「こんなことがあってつらかったんだけど、どうしようかな」って相談をするってこともありかなと、どうやったら伝わるかなって相談するのもありかなと思う。

<白新中学校 山本さん>

(木村コーディネーターが質問者に答えになっていたか確認したことに対して) 友だちに伝える時に、やっぱり関係悪くなっちゃうんじゃないのかなとか心配しちゃう部分もあるので、うまく相手のことも考えながら伝えるのが大切なんだなって思った。

<木村コーディネーター>

友だちにもちょっと言いにくいなという学校の場面になった時に、スクールカウンセラーという存在が学校にはいるのかなって思うが、(丸山教育次長にお聞きしたいこととして) 新潟市の学校はどのくらいの割合でスクールカウンセラーがいるのか。

<丸山教育次長>

スクールカウンセラーは中学校区ごとに配置をしている。例えば日常は各学校を回ることにしているけれども、何か緊急の事態やここはカウンセラーの力が必要だと思われるような状況があった時には、緊急派遣としてスクールカウンセラーの今までのローテーションを変えて集中してということもやっている。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



ディスカッション

<木村コーディネーター>

伊藤教授はスクールカウンセラーとしても働かれていらっしゃる経歴があると思うが、その観点から話をお願いしたい。

<伊藤教授>

スクールカウンセラーは毎日皆さんの学校にいないと思うので、会ったことない人もたくさんいるかもしれないけれど、新潟市内の各学校（小中高）にいる。すごく大変な心の問題がないと行っちゃいけないような気がするかもしれないけれど、そんなことはなくて、学校生活の中でこれどういうことかな、これ言えないなということがあったら来ていただいてお話することができる。

スクールカウンセラーに行くということができるといって、先ほどお話したような何が自分は嫌だったかなということも話ができるし、自分は何が嫌で、何を友だちに言いたかったのかなということも、振り返って整理をするってことができるだろうし、そのあと誰にどんなふうに言うのがいいかなんていう話もできるかもしれない。

もう一つ、友だちとか親とかに言えないことってたくさんあるけれど、もしその場だけで話をして自分で考えたいなというときは秘密が守られるってところは大事なところかなと思う。

<木村コーディネーター>

先ほどの明鏡高校の意見でも、結構おとなの人に言いづらいとか、例えば他の友だちにはもしかしたら自分のプライバシーとか進路のこととかも含め言いづらいのかなと思ってたりするが、なんか今のスクールカウンセラーだったりとか、友だち・学校の先生以外にも言える人がいると思うか。

<明鏡高等学校 倉持さん>

確かに友だちとか保護者にも言えないこととかを、学校の先生とかではなく、別で言えるとなると人によると思うけど私は誰かに話して「そうだよね」って共感してもらえたり、アドバイスをもらえるとすごく心が楽になったりするので、そういう手段があることを知っている方も多いと思うけど、もっとたくさんの子が知っていればすごくたくさんの子の悩みが解決されるのかなとは思う。

<木村コーディネーター>

そこ（相談できる場所など）をまず知っているということと、一步相談室に行く、踏み出して聞きに行くことはすごく勇気もいるけれど、まずは知っておくことが本当に大事なのかなと思う。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



ディスカッション

◆宮浦中学校 北林さん、川口さん⇒ 丸山教育次長へ質問

「(自分たちの学校では自由に伝えたい時に伝えるっていう事を授業でできてないという話をしたが)教師をしていた丸山教育次長のクラスでは発言する人は限られていたか。」

<丸山教育次長>

学級経営の話になるが、正直な話をするとなった。今もそうかもしれないけれど声の大きい子っているが、おとなもいるけれども、その人の考えに引きずられるってあるよね。(白新中学校に問いかける)

<宮浦中学校 北林さん>

(問いかけに対して)ある。

<丸山教育次長>

声の大きい子はいいんだけど、声の小さい子とか声なき声を発してる子がクラスにはいる。そういう子の仕草だったり、表情だったりを見てなんか言いたいんだろうなと思って、「どう思う」って水向けたりとかいうことが教員としては大事なんだなと思ってやってきたし、多分、宮浦中学校の先生方もそう対応してるんじゃないかなと思っている。

(感想として)決して声が大きい子だけが活躍できるような雰囲気にはしてないんじゃないかなと。

<木村コーディネーター>

先生のプロフェッショナル性というか専門性なのかなと思うが、こどもたちの目を見て今何を感じているのかなと、察知しながら当てていくっていうようなところだったりとか、意見を吸い取っていくというのも先生のすごく大事な役割なのかなと思う。

宮浦中学校では、具体的にどういう場面で、自分の声があんまり届いていないかも、届いているけど他の子の声が届いていないかもというところがあるか。

<宮浦中学校 川口さん>

僕が意見を発した時とあまり授業とかで発言しない子が頑張って発言した時とかに、周りの反応が発言に慣れてる僕に対する対応とその子が頑張った発言に対する温度差っていうのがよくあって、なんか頑張っているのにかわいそうだなみたいな、もっと焦点、スポットライトを当ててほしいなって思うことはよくある。

<木村コーディネーター>

ほかの学校では同じようなことはあるか。同じような場面や自分が感じるときは。

<万代高等学校 田中さん>

授業によって違うが、そういう発言をする人が限られているということはよくある。

(同じ学校の生徒から)生徒会での場面で、意見を1年生が挙げたものと2年生が挙げたものを合わせた案にしたと聞いたが、その時にどちらかの不満が残ったり、1年生が遠慮してしまったりという場面が多くあったと聞いた。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



ディスカッション

◆万代高等学校 脇さん（事前ワーク参加者、客席より質問） ⇒ 丸山教育次長へ質問

「生徒会で色々な人の意見を聞いたりすることがあるが、そこで他の人から権利が十分に守られていないんじゃないかと言われることが多い。おとなの世界でもし何か全く違う意見がぶつかった時に、どうやって進めていったりお互いの意見を混ぜてやったりしているか。やはり多数決で決まるのかなと思うが、他のところでどうしてるのかなっていうのが気になった。」

<丸山教育次長>

発言の機会は平等でなければいけないと思う。それは絶対。おとなの世界もそうですが、何のために今話し合っているかという目的、最上位目標とか言う。そこに照らして、あなたの意見とこの人の意見とどちらが一番大事にしたい目標に近いんだろうかというところで、一個一個潰していく。

そうするとこれに向かってはこの意見は素晴らしいけれど、こっちの方がちょっと上だよ、とかいうことになることが多い。けれど、上手くいく場合も行かない場合もある。

<万代高等学校 脇さん>

（発言を聞いて）お互いの意見を聞いて、まず何を一番大事にしているのかを全員で考えながらやっていくのが大切だなということがすごくよくわかってよかった。

◆白新中学校 山本さん ⇒ 高橋こども未来部長へ質問（岡田委員も回答）

「子どもの権利に「社会に参加する権利」があると思うが、その権利について考えてみたときに、そもそも社会に参加する機会が少ないなと思っていて、逆にあったとしても私たちにまで情報が回ってこない、だから、この権利はどう保障されているのかなと。逆に、私たちが気づかないだけで、この活動が社会に参加していることになってるよ、みたいなものがあるのか。」

<高橋こども未来部長>

新潟市の私たちの部では、中学生から意見発表してもらおうことをやっている。ただ、市内の中学校の数が大変多くあるので順番に回っているという状況。

全員の方から声を聞くことができていないので、その中の一部から声を聞いている状況になっている。

実際問題として、本当に今回こうやってみなさんから聞けるけど、全員から聞くことはなかなか物理的に難しいと思うが、例えばアンケート調査であったりとか、そういったものはポイントを絞りながらやったりしている。

ただ、最初からずっと感じているが、どうも私たちの発信の仕方がよろしくないのか、みなさんのところに届いていないのかなと、大変大きな課題に感じているので、これからはしっかりとみなさんに参加できるものは参加できる、できないものもきっとあるかもしれないが、そういった（情報をしっかり届ける）ことも取り組んでいきたいと思う。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



ディスカッション

<高橋こども未来部長>

(白新中学校の意見表明の内容について) 相談で電話するのも難しいし、その自分の辛いこととかを言葉に発して知らない人に言うのは辛いつてところも十分わかるところで、こころのレスキュー隊(子どもの権利相談室)でも手紙での受付はしてるが、話にあったように切手を貼らないとダメ。

提案のあった切手なしで出せるハガキの設置を学校とか公共施設なんかに入れてもらうのもどうかという話があったが、ピンポイントで申し訳ないが(想定している公共施設は)どういうところになるのか、教えてほしい。

<白新中学校 山本さん>

児童館とか、習い事が入っている建物だったり、習い事の場所に置いてもらえると聞かれない、見られたくない、人に見られずに自分の相談内容を受けたり、ハガキに出したりできるのかなと思う。

<高橋こども未来部長>

春から夏にかけて法務局の方から子どもの人権 SOSミニレターが、小中学校に配られているかと思うが、それは一応切手を貼らなくても出せるので、こどもの人権に関することとして届く先は違うが、そういったものの活用も考えていただけたらいいのかなと思う。

<岡田委員>

今の答えの関連で、こころのレスキューの方では市内の小中学生のもっているiPad(GIGA端末)のほうからこちらのレスキュー隊のホームページにあるフォームに書き込んで相談をしてくれる方もたくさんいる。

ただ、フォームは一方通行なので、連絡をもらってもう少し話が聞きたいなという場合には、その時に連絡できる電話は難しいと言われたけれど書いていただいてそうするとほかの方には知られないようなことで、一度会って話をお聞きすることも考えながらやっている。手紙もできれば一番いいと思うが、そういったフォームもある。

(参考:木村コーディネーターからの登壇者へ質問)

- ・こころのレスキュー隊はLINEで相談できるか ⇒ LINEは対応していない
- ・登壇した生徒が良く使用しているSNSとして、LINE、Instagram、Xが挙げられる

■中高校生の意見表明&ディスカッション



ディスカッション

◆明鏡高等学校 倉持さん ⇒ 有識者へ質問

「年上の方から言われたことは、私としてはすごく圧に感じてしまったり、そうしなきゃいけないのかとか。例えば、進学先を選ぶときにあなたはこっちの方が向いてるから、こうした方がいいんじゃないって言われると自分で目標を持っていたりしてもやっぱり両親から見たらそうなのかな、とか先生たちから見たら私はそう見えてるからそうの方がいいのかなって悩んだりする。（有機者が自分の）子どもたちにアドバイスする時にどういう意図をもって（悪気があるわけじゃないのはすごいわかるが）私たちの意見を組もうとしているのか、それとも学校の行事の話の時のように言いくるめようとしているのか個人としてどう思っているかを教えてほしい。」

<木村コーディネーター>

ご自身のお子様でもいいし、何かの周りの若者と接する時にでもいいので、ちょっとなんか自分の意図をちょっと出しすぎたかもなどそういう失敗談があればお聞きしたい。または、そういう時に気をつけていることとか、あればお聞きしたい。

<丸山教育次長>

一人のおとなとして話をすると、もし皆さんの未来が私たちの今の人生の延長線上にあるのだったら、自分のことを振り返って話しをすれば、多分それが参考になっただけでも、多分延長線上にないんですね。皆さんの幸せは、色んな状況が違うから私たちのときの幸せと違うんだと思う。

だから、今考えているのは自分が受けたアドバイスをそのまま皆さんにはできないかと思っていて、いろんな状況が変化しているから、あなたはどう考えているの、今こういう状況だよなって、色んなことを考えながら慎重に対話しないと、一概に上からボーンと言えないなっていうのは一人のおとなとして思う。

<高橋こども未来部長>

丸山教育次長が全部おっしゃってくださったなというふうに思う。

私もやはり自分の体験から自分のこどもに受験の時に話したが、うちのこどもの場合は、私の言うことは聞かずに、自分の道を歩いて行った。

でも、今振り返ってみるとやっぱりこどもの人生を私が全部面倒をこの先見ることができないので、これで良かったのかなと思う。

<岡田委員>

先ほどおとなは悪気があると言っているわけではないというふうに理解してくれているということですが、悪気ってことではないけれども悪気がない分に逆にやっかいだということもあるので、おとなは色んなアドバイスをしたり、こっちの方がいいんじゃないかという話をするかもしれませんが、結局おとなも年を取って経験積めば世の中のことがすべて分かるのかということでもないわけで、自分が歩んできた道とかあるいはせいぜい周りの知っている人の人生のこととかしか理解できない訳ですね。だから、おとなが自分の立場でこうした方がいいんじゃないのというときに、「私はこういうふうにしたい」とやっぱりお互いの意見をぶつければいいと思う。どっちが正しい、間違っているということではないから、「私はこういう風に考えて、こういう道を行きたい」と伝えて、最終的には決めるのはあなたの人生だから、こどもが決めておとなは尊重しなきゃいけないというのは条例のでもありますし、そこが一番大事なところになる。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



ディスカッション

<伊藤教授>

たくさん皆さんに言ってもらったのでそんなに付け加えることもないんですけど、私も倉持さんが言われたことは本当にそうだろうと思う。おとなだけじゃなくて、みんなは良かれと思って、悪気もないし、その人のことを思いやっていると思って、思い込みでこうした方がいいんじゃないのと、勝手なことを言うってしまうっていうのは、お互いあるのかなと思う。そしてこれも倉持さんが言われるとおりで、こどもがおとなによかれと思って言われたことって、言い返すのがどうしてもすごく難しいのかなと思う。

おとなの方が物事を知っているとか先が見えているとか思いこみがちなんだろうなって思うと、こどもが「そうじゃないよ。私はこう思うよ。」と言えたらいいなって思う。

ここに今たくさんおとながいるので伝えたいが、「～したほうがいいと思うよ」で止めないで、「～あなたは どう思う？」って聞きませんかというのを提案したい。

<木村コーディネーター>

おとなは自分がやっぱりどうしても権力があるという立場になってしまうことを自覚した上で対話をするっていうのをすごく大事にしたいなど、私もすごく思う。すべては対話から始まると思うので、こういった対話の時間ももっといろいろな場面であるといいのかなと思う。

意見表明やディスカッションの感想・まとめ

■宮浦中学校 北林さん、川口さん

- ・自分が話していた自由に発言したい時に発言できるっていう話に関しては、自分が今まで行ってきた学校だけの話ではないことが分かったので、違う学校の友だちもたくさんいるのでみんなで考えていけたらなと思った。
- ・自分が話した内容とは違う話で、相談する場所、自分の悩みを相談する場所がスクールカウンセラーだけだと思ったが、他にもアンケートだったりがたくさんあることわかったので悩める友だちがいたらこれから教えてあげたいなって思った。
- ・今日のこのディスカッションを通して新しい視点を得たので、これを学校に持って帰ってまずは自分のクラスからみんなの発言しやすい空気感を作っていこうと思った。

■白新中学校 山本さん

- ・社会に参加する権利について質問したが、このディスカッションの時間も社会に意見を伝える大切な時間だったなと思う。
お互いに思っていることを読み取るのは難しいことなので、対話を大切にしながら、他者意識を持って自分の意見を伝えたり、あるいは相手の意見に寄り添ったりして生活していきたいと思う。

■万代高等学校 田中さん

- ・これから進学や就職などにしていく中で、相談できる場所が増えたっていうのを、この機会に知ることができたので良かった。
- ・普段、他の高校や中学校からの意見交換をする場面がなかったり、色んなおとなの方たちから話を聞く場面が少なかったので、参加できてよかった。

■中高校生の意見表明&ディスカッション



今回、子どもたちから提案いただいた内容は関係する庁内の部署にも共有します

■明鏡高等学校 倉持さん

- ・今回、おとなの意見を押し付けていないかっていうのを意見として掲げていたが、おとなも自分たちの経験とか、私たちのことを思っすぎてアドバイスをしているのを改めて実感できたし、今回のこの対話の大切さとかを学んだので、これから自分がおとなになって、小さい子とかと接していく機会が増えると思うので、そういう時も対話を大切にして、相手の意見を尊重しつつ、自分の意見を強くあまり言わないようにしていきたいと思う。

■岡田委員

- ・色々意見が出たけれども、一つポイントというか大事なのはやっぱり子どもがしっかり自分の意見を言える・表明できることが非常に大事。そういうことができる権利があるというのが非常に大事だったのかなと思う。
- ・ただ、話を聞いていくと意見を表明したくてもなかなかできないとか、しても取り扱ってもらえないとかそういうところもあると。そうなるとおとなの問題になりますね。しっかり子どもが（権利として）認められた意見の表明を受け止めて、それを一緒に考えながら実現できるものは実現していくということが非常に大事なことだと思う。
- ・意見表明の機会ということでこういったフォーラムも大事ですし、大きな集まりでなくても定期的にみなさんの声が聞けるような表明してもらえそうなそういった場を作っていけたらいいと思う。

■高橋子ども未来部長

- ・今日の日のためにたくさんワークをしていただいたと聞いている。皆さんからいただいた気づきや新しい発見をしっかり受け止めて、これから仕事していきたい。

■丸山教育次長

- ・何言ってもいいという心理的安全性が確保されている場所で自由に話をできるって気持ちいいですね。そういう場を委員会としても作ってきたいと思う。

■伊藤教授

- ・話し合いの中で対話という言葉が出てきたが、対話をするというのはただ意見を言うということだけじゃなくて、相手のことも自分の気持ちも大事にして、だから対話が成り立つっていうようなところがある。でも、それをするためにはやっぱりお互い信頼できないといけないなと、今日話をしていたら思った。それは親と子の間ででもそうですし、先生と子どもの間ででもそうだと思うし、もっと大きいところで言ったら地域のおとなと子どももそうだし、あとは新潟市（行政）と子どもとか、行政とおとなかもしれないけれど、そういういろんなところに信頼ができるようになって、「信頼があるから言える」ということがあるんだなって、思いを新たにしてそれを作っていかないといけない、お互い作っていけるといいですね、と思った。
- ・子どもたちが意見を言うっていう時に言葉でだけでなくいろんな方法があるといいなと。先ほどハガキの話があったけれど、SNSで何か意見が言えるっていうようなことも、もっとあってもいいのかなって思うし、自分らしいってこと言ったら、スポーツの話が小学生からありましたけど、スポーツだとか漫画だとか歌だとか、色んな形で自分の意見を表現するためのいろんな機会ができていくと、とっても楽しいと思う。

■CHIBI UNITY ダンス&トーク

CHIBI UNITYの皆さんによるダンスやトーク、レクチャーを行いました。ジュニアの皆さんの迫力あるダンスが素晴らしかったです。トークでは目標に向かって頑張る思いについてお話しいただき、ダンスレクチャーでは参加者が立ち上がって一緒に楽しみました。こども自身が好きなこと、やりたいことを見つけて、一生懸命取り組める環境になることを目指し、子ども条例の周知を図っていきます。



■閉会の挨拶(新潟市子どもの権利推進委員会 会長 藤瀬 竜子委員)

皆さま、本日はご参加いただき、そしてこの場にいらっしゃらない方も準備に関わってくださった方がたくさんいると聞いています。本当に皆さま本日はどうもありがとうございました。

小学生、中学生、そして高校生の皆さんの生の声を聞かせていただき、子どもの権利について学び・感じ・考える貴重な機会となりました。

私たちが暮らす社会は子どもたちが安心して成長できて、そして一人一人が自分らしい未来を切り開けるそんな社会であるべきだと考えます。しかし、現実的には、生きていく権利それすらも守られていない子どもがいたり、あるいはそういう声を上げられない子どもがいることも事実です。

私自身も皆さんの声をちゃんと聞いているのだろうか、おとなとしてやるべきことがたくさんあるなと思いながらここに立たせていただいています。こんな気づきも、本日皆さんから教えていただいたことだと感じています。

今回のフォーラムの学びを、これからもいろいろな方に発信していきたいと思ひますし、皆さんの話を思い出しながら、自分なりに考え、子どもたちが自分らしく、安心して成長できる社会となるように努力していきたいと思ひます。

最後にはここうさ・ここねこによる
お見送りや記念撮影を行いました！

たくさんみなさまからご参加いただき、
ありがとうございました。

